

令和6年度第1回 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会

日時：令和6年4月16日（火）

15時30分から

場所：宇治市生涯学習センター

2階 一般研修室

<次第>

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 検討
 - (1) 専門部会の検討体制等
 - (2) 乳幼児期の教育・保育の基本理念
- 4 令和6年度 乳幼児教育・保育協働研修 年間計画（案）
- 5 その他連絡事項
- 6 閉会

<資料>

		ページ
① 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会 委員名簿	資料1	… 1
② 乳幼児期の教育・保育の今後のあり方について	資料2	… 2
③ 今後の検討事項及び検討体制について	資料3	… 4
④ 乳幼児期の教育・保育の基本理念について	資料4	… 10
⑤ 令和6年度 乳幼児教育・保育協働研修 年間計画(案)	資料5	… 15

宇治市乳幼児教育・保育推進協議会

委員名簿

分野	所属等	氏名
学識経験を有する者	京都教育大学 教育学部 准教授	佐川 早季子
幼稚園・保育施設の 従事者	宇治福祉園 理事長	杉本 一久
	こざくら幼稚園 園長	松井 明恵
	北木幡保育所 所長	坂本 知枝美
	神明幼稚園 園長	岩崎 温美
小学校の関係者	南部小学校 校長	杉本 俊恵
療育施設の従事者	京都府社会福祉事業団 こども発達支援センター 療育課長	中西 みき

(合計 7名)

※網掛け表示は新任委員

※任期は令和5年4月28日～令和8年4月27日(3年)

乳幼児期の教育・保育の今後のあり方について

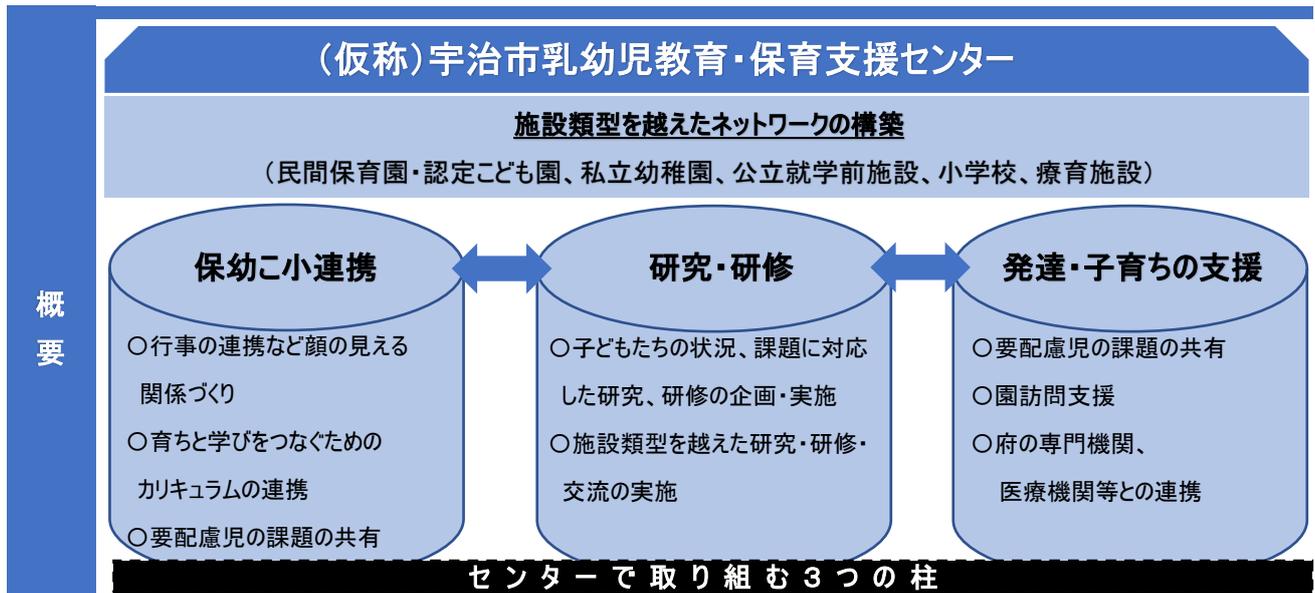
<これまでの経過>

- 令和4年4～8月 乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会(全5回)
- 8月 乳幼児期の教育・保育の今後のあり方に関する意見書
- 9月 公立幼稚園の今後のあり方について(宇治市教育委員会)
乳幼児期の教育・保育の今後のあり方について(宇治市)
- 令和5年4月～ 乳幼児教育・保育推進協議会を設置・開催
- 6月～ 保幼小連携専門部会、発達・子育て支援専門部会を設置・開催
- 令和6年1月 合同部会を設置・開催

<今後の予定>

1. (仮称)宇治市乳幼児教育・保育支援センターの設置
(現在の東宇治幼稚園敷地内)

施設類型を越えて全市的に連携・協働し、各施設での取組を共有することにより、これまで以上に、保幼小連携の取組推進や人材育成など、教育・保育の質の向上を図ることが可能となると考え、その仕組みづくりとして(仮称)乳幼児教育・保育支援センターを設置する。



○スケジュール

R5	R6	R7
支援センター準備室開設 推進協議会の設置・検討 専門部会での検討 合同研修会の実施 など		センター開設(※)

※現在の東宇治幼稚園敷地内

○令和6年度 乳幼児教育・保育支援センター準備室の構成員

No.	職・氏名	兼務・併任	主な役割
1	室長 雲丹亀 正記 【事務】	福祉こども部副部長 教育部学校改革推進課担当課長	室の統括
2	副室長 川崎 吉隆 【事務】	教育部副部長	統括補佐
3	副室長 武田 義博 【指導主事】	教育部教育支援センター長	統括補佐
4	主幹 齊田 雄太 【事務】	教育部学校改革推進課主幹	①推進協議会の運営 ②保育施設との連絡調整
5	主幹 大槻 翼 【事務】	教育部学校改革推進課担当課長 教育部学校教育課主幹	①保幼小連携に関すること ②私立幼稚園・小学校との連絡調整
6	主幹 垣見 千里 【幼稚園教諭】	教育部学校教育課主幹 教育部学校改革推進課主幹	①研修の計画・実施に関すること ②公立幼稚園との連絡調整
7	主幹 畑下 訓子 【保健師】	福祉こども部保健推進課副課長 教育部学校改革推進課主幹	①発達・子育て支援に関すること ②療育施設との連絡調整
8	会計年度任用職員 【事務】		①推進協議会の運営補助 ②その他各業務の補助

2. 就学前施設の取組

全ての就学前施設が施設類型を越えて、センターと連携しながら、子どもたちの状況や課題を共有し、連携・協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図る。

これに加えて、私立、民間の就学前施設においては、それぞれの施設で特色ある独自の教育・保育を実践することで、更なる教育・保育の質の向上を図り、公立就学前施設では、特別な配慮や支援が必要な子どもへのセーフティネットを担う仕組みづくりに取り組む。

また、公立幼稚園では、市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえた適正規模を維持するため、現行の3園体制を見直し、センターと併設・連携する幼稚園として開設し、保幼小連携、発達・子育て支援について、研究や研修を行うとともに、全ての子どもへの切れ目ない支援体制の充実に努める。

○公立幼稚園の統合に向けたスケジュール



今後の検討事項及び検討体制について

○検討事項

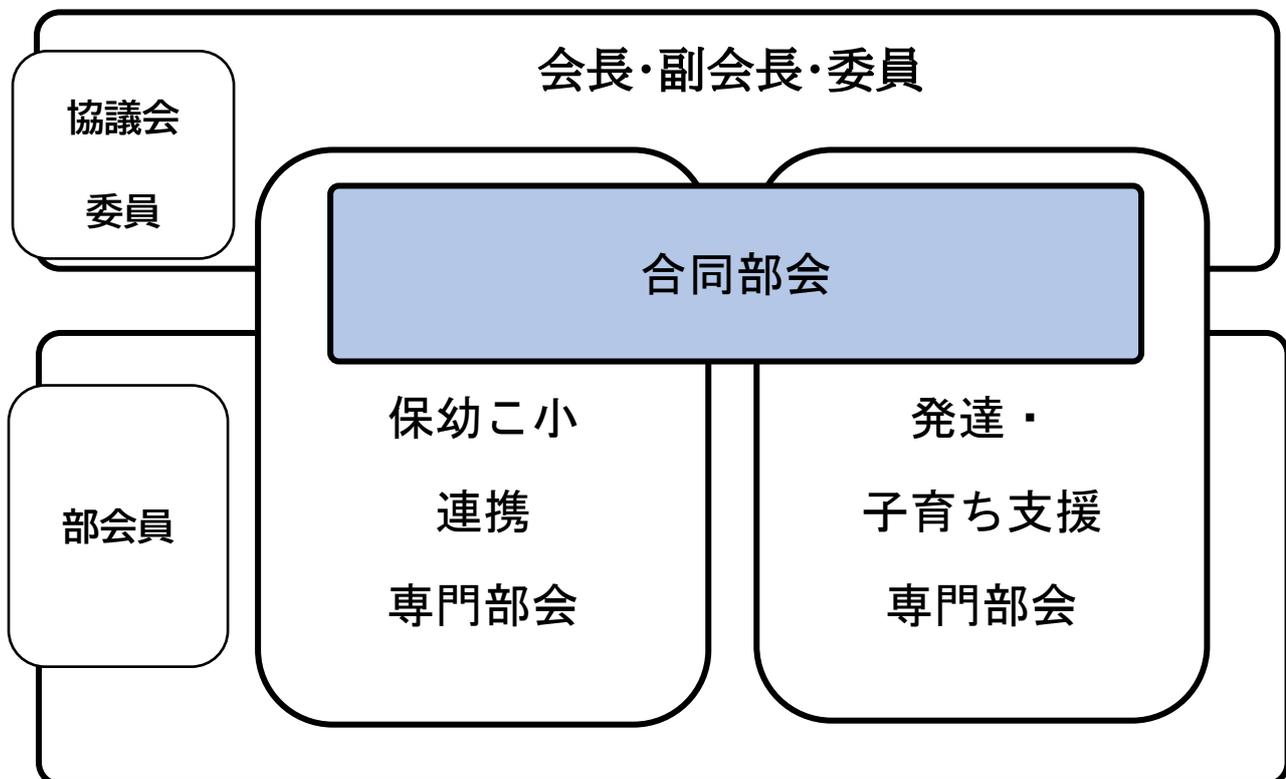
令和7年4月に開設を予定している（仮称）乳幼児教育・保育支援センターを中心に、「研究・研修」「保幼小連携」「発達・子育ての支援」の3つの機能を通して、宇治市のすべての子どもの育ちを応援していくために、3つの機能の具体化に向けた方策及び施設類型を越えた「乳幼児期の教育・保育の基本理念」等を、引き続き検討頂きたい。

○検討体制の経過

「保幼小連携」「発達・子育ての支援」の推進に向けて、現状把握、課題抽出、対応策の検討等について、昨年度よりそれぞれ専門部会を設置し、両部会長を中心に積極的な議論・提案等をいただいております。引き続き、両部会の継続設置をお願いしたい。

また、先般、令和6年度の研修計画の検討にあたり、施設類型を越えた子どもに関わる関係者で、今後の乳幼児教育・保育に関わる人材育成のあり方を検討するため、会長並びに両専門部会から選出された委員による合同部会を開催し、熱心なご議論をいただいたところです。

【参考】合同部会の構成



○今後の検討体制

これまでの検討経過を踏まえ、人材育成のあり方等を継続的に検討する機関として、「研究・研修専門部会」を設置し、今後の宇治市の保育者の更なる質の向上に向けた、人材育成に有効な手法や研究・研修を進めていくにあたり望ましいテーマなどについて、検討をお願いしたい。

なお、「研究・研修専門部会」の部会員は既存2部会の検討の方向性を踏まえた検討とするため、当面の間、昨年度の合同部会と同じ構成とし、令和7年度以降、研究・研修を更に深めるため、ワーキングチーム等による研究事業の実施も視野に入れた検討や研修内容の向上等についても検討をお願いしたい。

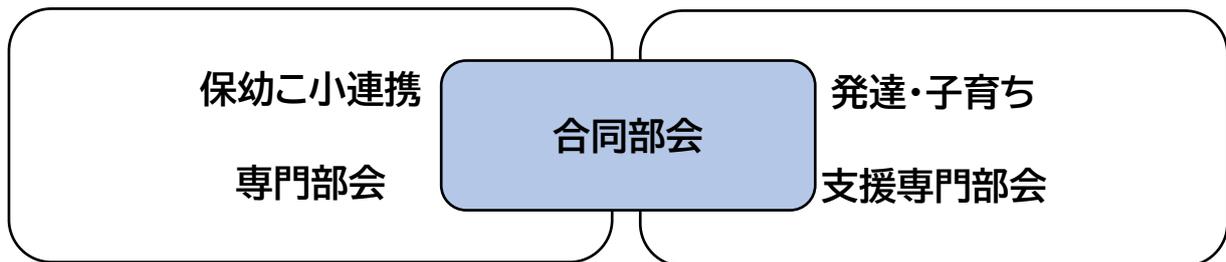
(仮称)宇治市乳幼児教育・保育支援センター

施設類型を越えたネットワークの構築

(民間保育園・認定こども園、私立幼稚園、公立就学前施設、小学校、療育施設)



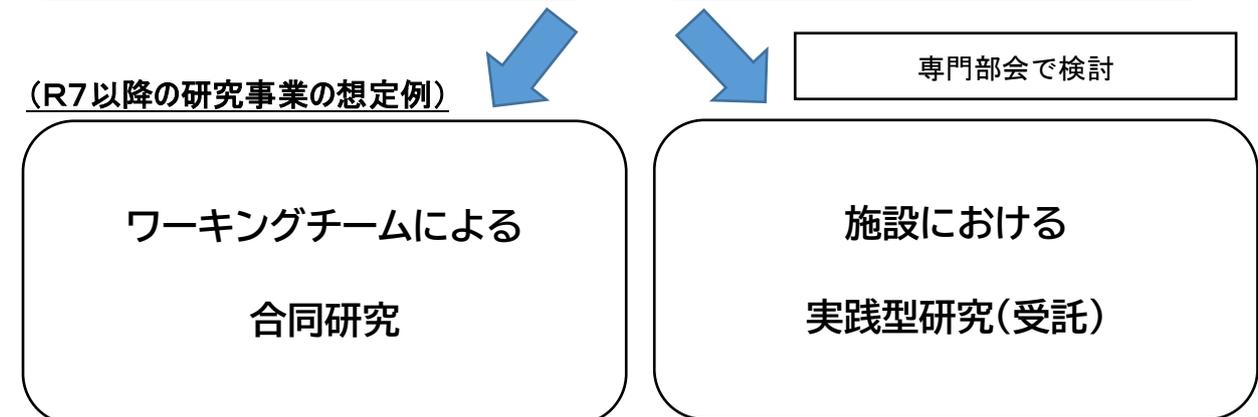
(R5)



(R6)



(R7以降の研究事業の想定例)



○令和6年度 研究・研修専門部会 部会員名簿（案）

区分		所属等	氏名	備考
協議会 委員	学識経験者	京都教育大学教育学部 准教授	佐川 早季子	推進協議会 会長
	民間保育施設	宇治福祉園 理事長	杉本 一久	発達・子育て 支援 部会長
	私立幼稚園	こざくら幼稚園 園長	松井 明恵	保幼小連携 部会長
	小学校	南部小学校 校長	杉本 俊恵	保幼小連携 部会員
幼稚園・ 保育施設 の従事者	民間保育施設	R6両専門部会 部会員 からの選出		
	私立幼稚園			

【参考】令和5年度 合同部会 部会員名簿

区分		所属等	氏名	備考
協議会 委員	学識経験者	京都教育大学教育学部 准教授	佐川 早季子	推進協議会 会長
	民間保育施設	宇治福祉園 理事長	杉本 一久	発達・子育て 支援 部会長
	私立幼稚園	こざくら幼稚園 園長	松井 明恵	保幼小連携 部会長
	小学校	木幡小学校 校長	藤田 祥尚	保幼小連携 部会員
幼稚園・ 保育施設 の従事者	民間保育施設	ひいらぎこども園 園長	中田 純子	保幼小連携 部会員
	私立幼稚園	みのり幼稚園 副園長	森田 美貴	発達・子育て 支援 部会員

（合計6名）

○令和6年度 専門部会への検討依頼事項

1. 保幼小連携専門部会

(検討依頼内容) (案)

- ① 小学校区を基礎としたグルーピング組織 ((仮称) 架け橋ブロック) を活用した保幼小連携の推進策について
- ② 就学前の子どもが小学校への期待感を高められる取組の推進について
(例: 小学校の施設見学・体験、小学校への防災訓練など)
- ③ 保育要録・指導要録の更なる活用に向けた記入内容の検討について

(参考①関連)

次年度に向けた対応策の提案

(2) 保幼小連携交流事業の実施に向けて

- ・以前の交流事業において、実施することが主となり、事前に就学前と小学校の先生同士で準備や打ち合わせが出来ていなかった
- ・カリキュラムを作ることも必要だが、まずは実際に交流の実施に向けて、先生同士がお互いを知り、気軽に連絡を取り合える関係が大事

➡ まずは先生同士の交流から始めることで円滑なスタートが切れる
コーディネーター等の全体を見て事業を進められる人の存在も必要

(令和5年度第3回推進協資料 保幼小連携専門部会報告書より一部抜粋)

(参考②関連)

課題の解消・軽減と「書きやすさ・送りやすさ・読みやすさ」の改善は両輪
「伝えたいこと」「知りたいこと」のミスマッチが生じないような交流・研修

(令和5年度第3回推進協資料 2(2)保育要録・指導要録の統一化の検討より一部抜粋)

2. 発達・子育て支援専門部会

(検討依頼内容) (案)

- ① 専門職による園訪問支援体制について
- ② 移行支援シートの統一化について

(参考①②共通)

次年度に向けた対応策の提案

(1) 支援体制の整備等について

- ・保護者が自発的に発達サポート事業の利用申込みをするケースは少ない
- ・発達サポート事業の対象範囲を絞らず、その時々の子どもの困り感を支援できるといい
- ・障害児保育指導員による巡回訪問は幼稚園が利用できないため、公平性の観点からも施設類型を越えて利用できるような事業の見直しの必要性
 - ➡全ての子どもがより豊かに集団生活を送れるよう、センターが主体となり、各施設を訪問し、園の先生方を支援できる手法を検討

(2) 「移行支援シート」のあり方について

- ・園と保護者が一緒に作成するので、その過程で子どもの情報を共有できるとともに、保護者も子どもへの関わり方が変わる
- ・小学校も引き継いでいくという意識を持てるので、移行支援シートは必要
- ・様式の統一に伴い、ポイントを絞って作成することで情報が整理される
 - ➡引き続き統一様式をベースに作成する中で課題が生じた場合に、その都度改善に向けた検討を実施

(令和5年度第3回推進協資料 発達・子育て支援専門部会報告書より一部抜粋)

(検討体制の強化について)

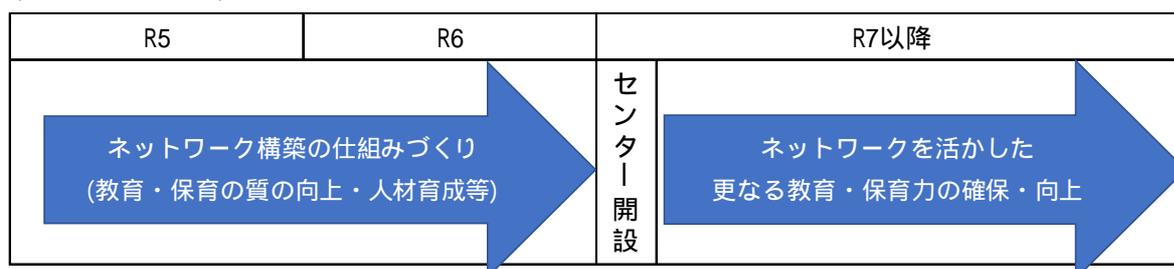
「(移行支援シートの話題で) 小児科医等の専門職等の力を借りながら取り組みたい」(R5第1回総合教育会議)

事務局案：専門委員として医師を追加

○令和6年度のスケジュール(案)

時期	区分等	想定している検討事項
4月	協議会	昨年度の振り返り、今後の予定 基本理念の検討 専門部会への検討依頼事項 など
5月	(部会員推薦依頼)	
6月	専門部会	協議会からの検討事項に対する 現状の課題の抽出
7月	専門部会	課題に対する対応策の検討
8月	(検討事項まとめ)	
9月	協議会	基本理念の検討 決定 専門部会からの報告事項に対する検討
10月	専門部会	課題に対する対応策の検討 次年度に向けた対応策の提案
11月	(検討事項まとめ)	
12月	協議会	専門部会からの報告事項に対する検討 次年度に向けた対応策の具体化
1月		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> 検討状況を踏まえて、開催回数・時期は調整 </div>
2月		
3月		

(今後のイメージ)



乳幼児期の教育・保育の基本理念について

1. 前回～今回～次回以降の流れ

前回（令和5年度第3回）の協議事項

- ・これまでの議論してきた内容の振り返り
- ・基本理念として掲げるキーワードの検討（内容・個数など）
- ・基本理念とセンターで取り組む施策との関連の検討



今回（令和6年度第1回）の協議事項

- ・基本理念として掲げるキーワード（これに至る考え方を含む。）の検討
- ・基本理念とセンターで取り組む施策との関連の検討



次回（令和6年度第2回）の協議事項

- ・3つのキーワードの確定
- ・3つのキーワードのセンターで取り組む施策との関連付け（最終）



目標

乳幼児期の教育・保育の基本理念の決定

〔次々回（令和6年度第3回）〕

2. 前提

（仮称）乳幼児教育・保育支援センターは、教育・保育の質の向上及び就学前施設の職員の人材育成を図るための機関

- ☛ 背景に子どもの存在を意識しながらも、その子どもたちの身近にいる就学前施設の職員に向けた言葉
- ☛ その言葉の意味について、保護者や子どもに説明できるようにすることが必要

3. 乳幼児期の教育・保育の基本理念（案）

令和5年度第3回推進協議会

区分				主な意見
案1	「いまを生きる」	「ともに育つ」	「みんながつながる」	現在進行形にすると基本理念が表れてきそう 子ども同士も影響し合うという意味もある つながることの必要性が求められ過ぎているため、従来とは異なるニュアンスもほしい ・ 第一印象で意味が似ている
案2	「生きる」	「育つ」	「つながる」	(特段意見なし)
案3	「いまをよりよく生きる」	「ともに学びともに育つ」	「子どもをまんやかにみんながつながる」	(特段意見なし)

再検討案

案1	「いまを生きていく」	「ともに育つ」	「みんなで支える」
案2	「いまをいきいきと生きる」 「生き抜く」 「生ききる」など	「ともに育つ」	「ゆるやかにつながる」 「みんなとつながる」 「手を取り合う」など
案3	生きる	育つ	つながる

4. キーワードのリード文（案）及びセンターで取り組む具体的施策の例

① 生きる

子どもが現在（いま）をいきいき“生き生き”と生きるための乳幼児教育・保育の取組を推進します。

- ☛ センターで取り組む具体的施策の例
 - 「研究・研修」…非認知能力をテーマとする研修、公開保育など
 - 「保幼小連携」…保育要録・指導要録の有効活用

② 育つ

子どもの成長は一人ひとりによって異なることから、保護者が子どもの個性や発達状況を受け入れることが大切です。そのため、保護者自身も成長するとともに、子ども同士が育ち合うという視点も大事にしながら、乳幼児教育・保育に携わる職員も質の高い教育・保育を提供するための研鑽に努めます。

- ☛ センターで取り組む具体的施策の例
 - 「研究・研修」…保護者対応、発達をテーマとする研修、公開保育など
 - 「発達・子育て支援」…移行支援シートの有効活用

③ つながる

子どもの望みを尊重しながらも、必要な時にはいつでも支援できるよう、全ての就学前施設や小学校をはじめ、専門機関や医療機関など、子どもの成長に関わる機関連携して、子どもの育ちを支援しますとの連携を図ります。

- ☛ センターで取り組む具体的施策の例
 - 「研究・研修」…保幼小連携をテーマとする研修、公開授業など
 - 「保幼小連携」…（仮称）架け橋ブロックでの取組
 - 「発達・子育て支援」…専門職による園訪問支援

5. 参考

(基本理念を検討する上で根拠とした推進協議会等の資料抜粋及び意見)

① “生きる” 関連

- ・子どもが現在（いま）を最もよく生きること
【令和5年度第3回推進協議会 資料P18（あり方検討委員会意見より抜粋）】
- ・「幼児期は子どもたち一人ひとりがどの子も生き生きと活動してほしいですし、したいことに向かっていってほしい」
【令和5年度第1回発達・子育て支援専門部会 意見】
- ・「子どもの将来を少しずつ見極めつつ、今何をしたいかということを保護者と一緒に考えていくことが難しい」「（保護者から）今何に困っているかが伝わらない」
【令和5年度第2回発達・子育て支援専門部会 意見】
- ・「「いまを生きる」という言葉だけでは寂しい～（中略）～「いまを生きていく」というような現在進行形にするだけでも基本理念が表れてきそうな感じがする」
- ・「育つエネルギーが湧いてくるようなイメージの「生き生き」で、同じ響きでも活字にすると印象が違ふと思うので、このような意味合いを込めたものとなるように」
【令和5年度第3回推進協議会 意見】

② “育つ” 関連

- ・（保護者支援に関連して）「保護者も子どもと一緒に育っていくし、保育者、教師も一緒に育っていく～（中略）～一緒に探していくという姿勢が必要」「ともに育っていく」
【令和5年度第2回推進協議会 意見】
- ・「子どもが主語になるということと、子どもだけということではなく、何か「一緒に」「私たち」という観点も、その言葉に入ると良い」
【令和5年度第2回推進協議会 意見】
- ・「みんなが育っていくような、優しさのあふれる言葉、優しさを感じられる言葉というイメージ」
【令和5年度第2回推進協議会 意見】
- ・「「ともに育つ」というところでは、保護者や保育者と書かれているが、子ども同士も共に影響し合って学び育っていくので、そのことも考慮してほしい」
【令和5年度第3回推進協議会 意見】

③ “つながる” 関連

- ・ 全ての就学前施設が施設類型を越えて子どもたちの状況や課題を共有し、連携・協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図る
【令和5年度第1回推進協議会 資料】
- ・ 施設類型を越えたネットワークの構築
【令和5年度第1回推進協議会 資料P1】
- ・ 保幼小連携
【令和5年度第1回推進協議会 資料P1】
- ・ (仮称) 架け橋ブロック
【令和5年度第3回推進協議会 資料P1】
- ・ 就学前施設と療育施設間の連携
【令和5年度第2回推進協議会 資料P6】
- ・ 参加型研修による協働的な学びの場
【令和5年度第1回推進協議会 資料24】
- ・ 家庭と就学前施設、地域の関係団体などの連携(つながり)が子どもの育ちや保護者の安心感につながるように、きめ細やかに連携すること
【令和5年度第3回推進協議会 資料P18 (あり方検討委員会意見より抜粋)】
- ・ 「その取組を進めることについての主語はみんなである」
【令和5年度第2回推進協議会 意見】
- ・ 「つながることはすばらしいことであるが～(中略)～「つながる」が色々な場面と言われ過ぎている～(中略)～「つながる」のイメージが今までと違っていいのではないか～(中略)～色々なつながり方があっていいですし、そのあたりのニュアンスがもう少し膨らめば」
- ・ 「「ともに育つ」、「みんながつながる」は第一印象で似ている～(中略)～「みんなが共に育つことを色々な専門機関と連携して支えていこう」という意味合いが強いと感じたので、みんなが手を取り合う、支えるという意味が伝わる文言になれば」
- ・ 「子どもの権利ということが言われていて、本当の声だけでなく何を望んでいるのか察することも含めて「子どもの声を聞く」ことが重要」
【令和5年度第3回推進協議会 意見】

令和6年度 宇治市乳幼児教育・保育協働研修 年間計画 (案)

1. 研修のねらい

民間保育園・認定こども園、私立幼稚園、公立就学前施設(保育所・幼稚園)、小学校、療育施設等が施設類型を越えて、子どもたちの状況や課題を共有し、連携・協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域との連携を推進し、子育てや家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を目指す。

2. 研修のポイント

- ・施設類型を越えた連携・協働の基礎となる顔の見える関係の構築「対面研修・グループワーク」
- ・非認知能力育成、保護者対応力向上、人材育成・組織マネジメント力向上講座の継続実施
- ・子どもの育ちと学びをつなぐための実践研修「公開保育・公開授業」

(令和5年度の研修の様子)



保幼小合同研修講座



エピソード研修



人材育成ワークショップ



発達・子育てワークショップ



令和6年度 宇治市乳幼児教育・保育協働研修 年間計画(案)

目安となる時期等 初任期(1～6年)・中堅期(7～15年)・充実期(16年以降～)・管理職
(あくまで目安で当該時期以外の方も受講は可能です)

区分	No.	月日 (予定)	形式	テーマ・内容	対象者の目安			講師	
					初任	中堅	充実		管理
乳幼児教育・保育の質向上	1	5/28 (火)	グループワーク・講演	「非認知能力の育ちにつながるアタッチメント(愛着)」 「子どもから学んだこと」をキーワードにエピソードを語り合うとともに、かけがえのない存在である子どものアタッチメント(愛着)について学び合う。 「創造的な表現活動」 保育者・教師自らが、五感や気持ち、素材、道具を大切にしながら創造的な表現活動を体験する。	○	○	○	佐川 早季子 京都教育大学 教育学部 幼児教育科 准教授	
	2	7/22 (月)	実技研修	「身体表現遊び」 明日すぐに子どもと遊んでみたくなる、身体表現遊びを体験する。	◎	◎	◎	津田 純佳 府幼児教育アドバタイザー	
	3	9/2 (月)	実技研修	「(仮)学びに向かう力を育む環境とは」【京都教育大学協働研修と合同】 公開保育とその後の協議等を通して、学びに向かう力を育む環境について学び合う。	◎	◎	◎	本山 益子 府幼児教育アドバタイザー 京都文教大学 こども教育学部 教授	
	4	11～12月	公開保育 (東宇治幼稚園)	「(未) テーマ」 公開保育とその後の協議等を通して、テーマについて学び合う。	◎	◎	◎	未定	
	5	1月頃	公開保育 (私立幼稚園予定)	「(未) テーマ」 公開保育とその後の協議等を通して、テーマについて学び合う。	◎	◎	◎	未定	
	6	未定	公開保育 (民間認定こども園予定)	「(未) テーマ」 公開保育とその後の協議等を通して、テーマについて学び合う。	◎	◎	◎	未定	
連携・継続	7	7/30 (火)	演習	「保育要録・指導要録の書き方と活用の仕方」 具体的な記入例や活用例を通して、伝わる・活かせる要録を目指して学び合う。	◎	◎	◎	学校教育課指導主事	
	8	2学期	公開授業 (南都小学校予定)	「(仮)学びに向かう力を育む環境とは」 公開授業とその後の協議等を通して、学びに向かう力を育む環境について学び合う。	○	◎	◎	未定	
	9	2/21 (金)	グループワーク等	「幼児教育と小学校教育の接続期カリキュラム」 実践報告・講演・グループ協議を通して、教育・保育の充実につながるための活用できる接続期カリキュラムについて学び合う。	-	◎	◎	◎	古賀 松香 京都教育大学 教育学部 幼児教育科 教授
発達・子育て	10	6/6 (木)	グループワーク	「保護者の気持ちに寄り添う相談」 子どもの困っている姿に気持ち、支え、つなぐために、多様な保護者と接している発達相談員を囲んで互いの悩み等を語り合い、1学期の懇談等に活かせるように学び合う。	○	◎	◎	◎	保健推進課発達相談員
	11	未定	講演・グループワーク	「宇治市のフォローステムについて学ぶ」 発達面で支援が必要な子どもとその保護者に対する就学前のフォローステムについて学び合う。					保健推進課発達相談員 学校教育課指導主事
	12	8/23 (金)	講演	「(未) テーマ」					服部 敬子 京都府立大学 教授
	13	未定	グループワーク	「(未) テーマ」					未定